



好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

6月の行事予定

6月		食堂	下校指導	学習時間	定期教育相談(45分授業)
1	⊕	×			
2	⊗	×			
3	月	×			
4	火	×			
5	水	×			
6	木	○			
7	金	○			
8	⊕	×			
9	⊗	×			
10	月	○			
11	火	○			
12	水	○			
13	木	○			
14	金	○			
15	⊕	×			
16	⊗	×			
17	月	○			
18	火	○			
19	水	○			
20	木	○			
21	金	○			
22	⊕	×			
23	⊗	×			
24	月	○			
25	火	○			
26	水	○			
27	木	○			
28	金	○			
29	⊕	×			
30	⊗	×			

高校総体を通して 保健体育科 辻原潤一郎

忘れられない試合がある。高校2年の県総体、真っ黒な土の緑地公園グラウンドでの試合だった。我々鹿屋高校ラグビー部は、ノーシールドながらしぶとく接戦をものにし、ベスト4へと勝ち進んだ。そこで決勝をかけた相手は鹿児島実業高校。とにかくデカイ。チームにとっても私にとっても初めての準決勝、緊張と不安で試合開始を迎えた。

実はこの試合の半年前、新人戦でも鹿児島実業と対戦していた。大きなフォワードになす術なく押し込まれ、スピードあるバックスに縦横無尽に走られ、完敗した。

試合開始の笛が鳴る。何だかフワフワしている感覚。自分ではないようだ。フアーストスクラム、そこで驚くことが起きた。新人戦ではゴリ押しされていたスクラムが、ピタッと止まった。体が震えた。全員のスイッチが一気に入る。「俺も」「俺も」同調するかのように入ると、皆が気迫のタックルを連発する。タックルの雨あられ。攻撃したことは覚えていない。しかし、相手がたじろぐ攻撃的なディフェンス・タックルで、大きな鹿児島実業に対して、容易に前進を許さない。一進一退の展開が終盤まで続いた。

互いに一歩も譲らぬまま、10対9の1点ビハインドで試合終了を迎えようとしていた。時計の針がまもなく後半30分を指そうとしていた時、鹿児島実業選手がグラウンド中央付近でオフサイドの反則、PKを得る。そこで我々の主将はゴールポストを指さし「ショット」のコール。ペナルティゴールを狙うという意思表示だ。会場は大きくどよめいた。入れば逆転、正面ではあるが、40m以上ある難しいロングキック。静まり返ったグラウンド、固唾を飲んで見守る観客。ボールは快音と共にゴールへ向かっていく。悲鳴とも、歓声とも区別がつかないような声、会場中に響き渡る。「行け！行け！」。その瞬間、ボールはほんの僅か、無情にもクロスバーの下を通過した。そしてその直後、ノーサイドを告げるレフリーの笛が鳴らされた。

鮮明に覚えている約30年前の記憶。毎年5月、総体が近づくこの季節になるとふと思いつく。あの時自分が決めていれば、というほろ苦い悔しさ、そして僅かな充足感。決して美談でも、綺麗な思い出でもない。しかし、この時期、ふと記憶が蘇る。

総体に向かって各部最後の締めくくりにこの時期、君たちは何を思い、どのようにお話になったのだろうか。校長先生も以前お話をしたように、いつか、どこかで負ける時はやってくる。ある意味、負けに向かっている。ただ単に負けを受けよう。しかし、ただ単に負けを受けよう。しかし、時を刻んでいるのではなく、惜しみながら、全身全霊を傾けているに違いない。その最大限の努力が、感動を生み、個人を成長させる。「幸運の女神は、準備を整えた人にだけ微笑む」の集大成だ。最善の準備をし、最高の舞台に立ち、最良のパフォーマンスを発揮してくれることを期待したい。

「ああ鶴丸の 意気高し 我が鶴丸に勝利あれ 勝利あれ」



奮闘する鶴丸高校ラグビー部

令和元年度 短期海外研修について 英語科 瀧山 完二

この研修は、本校の創立百二十五周年を記念して平成二十九年より始まった事業です。目的は次の通りです。

「将来の鹿児島県、日本、ひいては世界をリードする人材の育成を目指して、本校生徒に海外の高校生との交流を中心とした海外生活を体験させる。」

学習意欲に富み、知的好奇心の溢れる本校生徒たちが、机上ではなく実体験として文化や他国での生活を体験すること、一層の向学心を抱き、これからの世界をリードする人材としての素養および国際性を育む。」

『寒暖自知』という言葉があります。寒い場所に自ら身を置く、また暑い場所に直接入って初めて暑いという現実を知る、つまり、人から教えられてわかるのではなく、自ら体験することで初めてわかるという意味です。自らその場に赴き、その場に身を置き、目にし、体験して理解する大切さと、またそれによって自らが鍛えられていく価値を説いたものです。平成三十年度の参加者たちは、まさにこの言葉を具現化することができたと思います。

様々な文化が混ざり合うニューヨークでは失敗は怖くない。失敗を笑われたりしない。失敗を恐れてチャレンジしないことのほうが呆れられる。懸命に伝えよう、学ぼうとする姿勢を見せれば相手もそれに応えようとしてくれる…

これは、今回の研修終了後に参加した生徒が記してくれた言葉です。一般論としては至極当たり前のことのように思われますが、実体験を通してこの学びを得た生徒は、このことを誰よりも深く心に刻みつけていくことになるだろうと思います。人から学んだものではなく、自らに覚えさせて、自分で学んだことは必ず身に付き、そして助けてくれるからです。



派遣生徒が訪れるニューヨークの景色



昨年度の短期海外研修の参加者

この研修で派遣できる生徒はわずか十名に限られています。しかし、この研修に応募する際、日本語や英語で自分の考えを文章でまとめることを通じて、自分自身を見つめ直す貴重な機会を得ることができ、一人でも多くの生徒が本研修に応募し、英語力だけでなく人間力を磨ききつかけをつかんでくれることを期待しています。

令和元年度「短期海外研修」主な日程等

- ・派遣期間 令和2年3月4日(火) ~3月13日(金)
- ・研修先 アメリカ合衆国 ニューヨーク (現地高校訪問、コロンビア大学キャンパスツアー、国連見学などを予定)
- ・募集期間 令和元年5月14日(火) ~6月10日(金)

前期生徒総会が開催されました

令和元年度になり、はじめての生徒総会が5月15日に開催されました。生徒会の準備したスライドを使いながら、今までにない話し合いの方法が行われ、生徒は体育館中を歩き回りながら、活発な意見交換を行った。



スライドを使って説明する様子

生徒会が準備した第3号議案は、「令和元年度の私たち鶴丸生が建学の理念や校是を達成するために今、伸ばすべきだと思える力を議論し設定しよう！」であった。このテーマに基づき、生徒は①説明 TIME②共有 TIME③感想・代表者発表 TIME④自分でふりかえり TIME⑤共有 TIME⑥決定 TIMEの流れで議論を深めた。この議論の結果「積極的な行動力」が必要だということが全校生徒で決定され、今後その具現化に向けて生徒会が取り組んでいくことになった。



全校生徒による意見交換

はほんの僅か、無情にもクロスバーの下を通過した。そしてその直後、ノーサイドを告げるレフリーの笛が鳴らされた。

鮮明に覚えている約30年前の記憶。毎年5月、総体が近づくこの季節になるとふと思いつく。あの時自分が決めていれば、というほろ苦い悔しさ、そして僅かな充足感。決して美談でも、綺麗な思い出でもない。しかし、この時期、ふと記憶が蘇る。

総体に向かって各部最後の締めくくりのこの時期、君たちは何を思い、どのように過ごしているだろうか。校長先生も以前お話になったように、いつか、どこかで負ける時はやってくる。ある意味、負けに向かつて我々は進んでいるとも言えよう。しかし、ただ単に負けを受け入れるために、時を刻んでいるのではなからう。どの部活も今この瞬間、1分1秒を惜しみながら、全身全霊を傾けているに違いない。その最大限の努力が、感動を生み、個人を成長させる。「幸運の女神は、準備を整えた人にだけ微笑む」。残された時間は少ない。いよいよ3年間の集大成だ。最善の準備をし、最高の舞台に立ち、最良のパフォーマンスを發揮してくることを期待したい。

「ああ鶴丸の 意気高し 我が鶴丸に勝利あれ 勝利あれ」